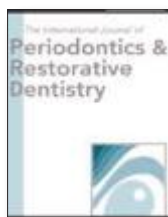


単歯修復における即時機能荷重、比較



Influence of Laser-Lok[®] surface on immediate functional loading of implants in single tooth replacement: a 2-years prospective clinical study.

単歯修復における、インプラントの即時機能荷重に対する Laser-Lok[®] 表面の影響：2年間の前向き臨床研究

D Farronato, F Mangano, F Briguglio, V Iorio Siciliano, F Riccitiello, R Guarnieri.
Int J Periodontics Restorative Dent. 2014;34(1):79-89



図1：インプラントを2本埋入した患者のオルソパントモグラフィー（上顎右4番部位にLL、上顎左4番部位にNLL）



図2：治療前 (A)、治療後 (B)

歯槽頂骨吸収 (mm)				
	BSL	T1	T2	T3
NLL	0.39 ± 0.17	0.80 ± 0.31	1.02 ± 0.29	1.07 ± 0.30
LL	0.19 ± 0.13	0.36 ± 0.20	0.41 ± 0.27	0.49 ± 0.34
平均値および SD				
t=2.7338、p=0.0340、p < 0.05 の場合に有意な差とする。				

図3：研究期間中の歯槽頂骨吸収 (CBL) 結果

要約

本臨床研究の目的は、上顎小白歯間、下顎小白歯間の部位における単歯欠損修復において、即時機能荷重をしたインプラント周囲の臨床的アタッチメントレベルおよび歯槽頂骨のリモデリングについて、Laser-Lok[®] マイクロテクスチャー表面の効果を評価することである。

材料と方法

前向き無作為化研究に参加した77名の患者を2つのグループに分けた。コントロール群にはBioHorizons テーパード・インターナル Laser-Lok[®] 無しインプラント (NLL 39本) を埋入、実験群には同社のテーパード・インターナル Laser-Lok[®] (LL 39本) を埋入した。最終補綴装置時 (BSL)、および装着荷重後6ヶ月 (T1)、12ヶ月 (T2)、24ヶ月 (T3) において、歯槽頂骨吸収 (CBL)、臨床的アタッチメントレベル (CAL)、歯垢指数 (PI)、プロービング時の出血 (BOP) の臨床的パラメータを記録した。

結果

コントロール群、実験群でそれぞれ1本ずつ脱落し、2年後の総残存率は96.1%となった。PIおよびBOPに関しては両群に有意差はなかった。CALは最初の2年間でコントロール群で1.10mm ± 0.51mm、実験群では0.56mm ± 0.33mmの喪失が認められた。またパノラマX線写真から槽頂骨吸収を計測すると、コントロール群が1.07mm ± 0.30mm、実験群では0.49mm ± 0.34mmであった。

結論

インプラントの残存率は両群とも同等であった一方で、実験群におけるCALは有意に高く、CBLは有意に小さい値を示した。